

令和4年度「家庭科の資質・能力」表

※□は、資質・能力の取り扱い学年、■は、定着学年を示す。

内容		学習指導要領との関連内容	5年	6年	
家庭科の学びに向かう力、人間性等	ア	家族の一員として、家庭生活を大切にしようとする。	A(1)ア	■	■
	イ	家族や地域の人々と関わり、協力しようとする。	A(3)イ	■	■
	ウ	家庭生活や学校生活を含めた生活全般を楽しもうとする。よりよい生活のために工夫して実践しようとする。	全般	■	■
	エ	日本の生活文化を大切にしようとする。	全般	□	■
	オ	日常生活の中から問題を見だし、課題を設定しようとする。	A(4)ア	■	■
	カ	生活課題について自分の生活経験と関連付け、様々な解決方法を見いだそうとする。	A(4)ア	■	■

家庭科の各内容の付けたい力 A家族・家庭生活	1	家庭の中の自分や家族の生活を支える仕事を見つける。	(2)ア	■	■
	2	自分や家族を支えるための仕事を分担して行う。	(2)ア	■	■
	3	家族の生活に合った生活時間の有効的な使い方を考える。	(2)イ	□	■
	4	家族や地域の人々とのふれあいや団らんの仕方を楽しく工夫する。	(3)アイ	■	■
家庭科の各内容の付けたい力 B衣食住の生活	1	食事の役割を知り、日常の食事の大切さを考える。	(1)ア	■	■
	2	楽しく食事をするための工夫をする。	(1)イ	■	■
	3	調理に必要な材料や分量、手順が分かり、調理計画について理解する。	(2)ア(ア)	■	■
	4	調理に必要な用具や食器、こんろの安全で衛生的な取り扱いについて理解し、適切に取り扱う。	(2)ア(イ)	■	■
	5	材料に応じた洗い方、調理に適した切り方、味の付け方を考える。	(2)ア(ウ)	□	■
	6	分量、色どり、食べやすさなどを考え、盛りつけや配膳をする。	B(3)イ	■	■
	7	材料に適したゆで方を理解し適切にできる。	(2)ア(エ)	■	■
	8	材料に適したいため方を理解し適切にできる。	(2)ア(エ)	■	■
	9	伝統的な日常食である米飯の調理の仕方を理解し適切にできる。	(2)ア(オ)	■	■
	10	伝統的な日常食であるみそ汁の調理の仕方を理解し適切にできる。	(2)ア(オ)	■	■
	11	おいしく食べるために調理計画を考え、調理の仕方を工夫する。	(2)イ	■	■
	12	体に必要な栄養素の種類と働きを考える。	(3)ア(ア)	■	■
	13	栄養的な特徴を考え、食品の仲間分けをする。	(3)ア(イ)	■	■
	14	食品を組み合わせて取ることの大切さを考える。	(3)ア(イ)	■	■
	15	目的に合った献立を考え、工夫をして1食分の食事を計画する。	(3)ア(ウ)イ	■	■
	16	気温や季節の変化、生活場面に応じた衣服の着方を考える。	(4)ア(ア)	□	■
	17	衣服にはどのような働きがあるかを考える。	(4)ア(ア)	■	■

	18	日常着の快適な着方や手入れの仕方を考える。	(4)イ	■	■
	19	日常着のボタン付けや洗濯の仕方が分かり、適切に行う。	(4)ア(イ)	■	■
	20	布を用いて製作する物を考え、製作計画を立てる。	(5)ア(ア)	■	■
	21	形などを工夫し、手縫いにより目的に応じた簡単な縫い方を考えて製作する。	(5)ア(イ)	■	■
	22	ミシンの直線縫いを使って製作する。	(5)ア(イ)	■	■
	23	手縫いやミシン縫いなど、目的にあった縫い方を考えたり、生活を豊かにするための物を工夫したりして製作する。	(5)イ	■	■
	24	製作に必要な用具を安全に取り扱う。	(5)ア(イ)	■	■
	25	身の回りの物を工夫して整理・整とんする。	(6)ア(イ)	■	■
	26	気持ちよく住むための清掃の仕方を工夫して行う。	(6)ア(イ)	■	■
	27	身の回りを快適に整えるための手だてや工夫を調べる。	(6)ア(イ)	■	■
	28	住まいの主な働きや季節の変化に合わせた生活の大切さや住まい方について考える。	(6)ア(ア)	■	■
	29	気持ちよく住むための工夫の仕方を、暖かさや風通し、明るさなどから考える。	(6)イ	■	■
家庭科の各内容の付けたい力	1	買い物の仕組みや消費者の役割を理解し、身の回りの物や金銭の大切さ、計画的な使い方が分かる。	(1)ア(ア)	□	■
C消費生活と環境	2	情報の収集や整理をして、目的に合った物の選び方や買い方を考える。	(1)ア(イ)	□	■
	3	身近な物の選び方、買い方の工夫をする。	(1)イ	□	■
	4	身近な環境との関わりを考え、物の使い方を見直す。	(2)ア	□	■
	5	環境に配慮した物の使い方を工夫する。	(2)イ	□	■

〈家庭科の学びを支える「見方・考え方」〉

- a 日常生活の中から問題を見だし、課題を設定する。
- b 生活課題について自分の生活経験と関連付け、様々な解決方法を構想する。
- c 実習や観察・実験、交流活動の結果をもとに、考察したことを根拠や理由を明確にしてわかりやすく表現する。
- d 他者の思いや考えを聞いたり、自分の考えをわかりやすく伝えたりして計画・実践等について評価・改善する。

〈内容の学びを深める「見方・考え方」〉

- 家族・家庭生活 e 自分と家庭の仕事とのかかわりに着目し、家族や地域の人々と協力し、よりよい家庭生活に向けて考え、工夫する活動を通して、家族や家庭生活の大切さについて考える。
- 衣食住の生活 f 自分や家族の思いに着目して、健康・快適・安全で豊かな食生活、衣生活、住生活に向けて考え、目的に応じて自分なりに工夫し、具体的な方法について考える。
- 消費生活と環境 g 持続可能な社会の構築に向けて、自分の生活と物や金銭、環境との関わりに着目し、身近な消費生活と環境を考え、課題を見付け、その解決方法や工夫について考える。